



つくば・市民ネットワークは、「暮らしの中からまちづくり」をモットーに活動しています。様々な課題に取り組む中で見えてきた県政の重要性について、前市議の宇野のぶこと現市議4人が話し合いました。

宇野 まず教育。市民ネットでは小中学校の特別支援教育の支援員増員を実現しました。本当は教員の増員が必要ですが、それは県の権限で、市では限界があります。大井川知事は県内10の一高を中高一貫化して高校の定員を減らすなど、一人ひとりを大切にする教育ではなく、格差を拡げる方向になつていて非常に心配です。

皆川 水道事業も。2018年つくば市の水道料金改定では、値上げ幅の抑制に取り組んだけど、水道料金の約半分は県に払う受水費。

市が努力しても、県が値上げしたらお手上げです。

あさの 東海第二原発の県民投票を求める直接請求は県議会でも否決されたけど、宇野さんはどう思いますか？

宇野 県議会が主権者である県民の意思表示の機会を認めないなんて、おかしいと思います。

小森谷 コロナ対策の要の保健所や医療行政も県の管轄。福祉分野では国の各種支援制度の導入に都道府県の差があるし、信号や横断歩道の設置も県警の判断なんですよね。

市政も県政も市民の力で



市議 あさのえくこ

川村 洞峰公園は県の施設で、最近グランピングやバーベキュー施設等の導入が公表され、周辺住民の不安の声がたくさん届いています！

宇野 やっぱ県政も市民がもっとチェックする必要がありますね。



市議 皆川ゆきえ

県の情報もチェック!!

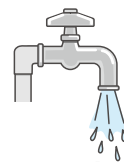


市民ネット運営委員(前市議) 宇野のぶこ

高校は何とかしてほしい!



市議 川村直子



市議 小森谷さやか

保健所・福祉
東海第二原発再稼働

洞峰公園など県施設
水道事業・警察
教育・県立高校



気候みらい会議を開催します ～ 未来のつくばを考えよう ～

つくば市は、「ゼロカーボンシティ宣言」を行いました。温暖化対策を実効性あるものにするためには、関心ある一部の人だけでなく、何となく不安に思っている人、ぜんぜん平気、気にしないという人など、多様な市民の参加が重要です。

そこでつくば・市民ネットワークでは、無作為抽出で選ばれた市民が、温暖化対策について話し合う「気候みらい会議」を行います。会議では、参加者が2050年へタイムスリップして、どんな温暖化対策が実現している

かを話し合い、2022年の市民に今取り組むべきことを助言する設定で、色々なアイデアを出し合います。

無作為抽出で選ばれた方には「気候みらい会議のお知らせ」をお届けしますので、ぜひ積極的な参加をお願いします。

また、無作為抽出以外にも市内在住の中高生の参加を募っています。興味ある中高生の皆さん、市民ネット事務局までご連絡ください。



会派代表質問より 会計年度任用職員 専門職こそ正職員化を!!

会派代表質問は、3人以上の会派の代表が、3月議会で新年度の市長の所信表明に対し、政策的な観点から行う質問です。今年の会派代表質問は初めて川村が担当しました。

特に、4000人に近い市職員の約半数が、非正規の会計年度任用職員である現状は見直すべきと考え、SDGsの個別目標⑤「ジェンダー平等」、⑧「ディーセントワーク（働きがいのある人間らしい仕事）の促進」の観点から質問しました。

地方自治体では、2020年度から、臨時・非正規職員は会計年度任用職員制度に移行しました。会計年度任用職員は、年度ごとの雇用契約のため、長年働いていても次年度採用されるとは限らず「雇い止め」に遭ったとの声がつくば・市民ネットワークにいくつも届いています。

会計年度任用職員は庁舎の窓口業務、保育士、保健師、図書館司書、様々な相談業務などで多く配置されており、女性の多い職種ばかりです。潜在的に「女性の収入は家計の副次的なもの」と考えられている表れではないでしょうか。



つくば市では正職員採用の年齢制限を撤廃したり、保育士は正職員採用を一定数増やし改善に努めているとのことでした。しかし、市民生活を支える市職員の暮らしが守られていない状況では、市民サービスの質の低下を招きかねません。フルタイムで働く会計年度任用職員については、経験や専門性が求められる保育士や図書館司書などから、採用枠を拡げて正職員化することを要望しました。今後も注視していきます。

会派代表質問における他の質問項目は以下の通りです。

- 「つくばスーパーサイエンスシティ構想」を進めるにあたって、個人情報を守りながら
- 3月議会で宣言された「ゼロ・カーボンシティ宣言」、2050年までにCO2実質ゼロを達成する行程
- 2022年度より開始される「コミュニティスクール(学校運営協議会)制度」
- 生活困窮者自立支援事業と住宅政策の充実
- 性的少数者の生きやすさへの取り組み
- ゴミ減量と最終処分
- 地域交流センターを地域コミュニティの拠点に
- プレイパークにはプレイリーダーが必要、ハード面とソフト面の充実

詳細は市議会Webページをご覧ください。



つくば市議会議員
市民経済委員会委員

川村 直子

会派代表質問項目

- ・令和4年度当初予算(案)の概要
- ・令和4年度主要施策



不登校児童生徒への支援の在り方について



つくば市議会議員
文教福祉委員会副委員長

小森谷 さやか

一般質問項目

- ・不登校児童生徒への支援の取組、在り方について
- ・教育委員会について

不登校の子どもが増えています。「皆と同じように学校に行けない」という苦しさは周囲の想像以上です。いじめなど明らかな要因がないことも多いため、余計に「なぜ行けないのか」と親子共々悩みます。

この問題に対し国は、2017年施行の『教育機会確保法』で大きく舵を切りました。不登校の児童生徒を国や自治体が支援することが明記され、登校のみを目標とせず、休養の必要性を認め、学校以外での多様な学習活動を支援する方針を掲げたのです。

つくば市ではそれまで、不登校の子どもを学校に戻す指導を行う目的で「つくしの広場」を教育相談センター内に設置していましたが、この法律の方針を受けて学校に戻すことを目的としないことになりました。また、「つくしの広場」だけでは対応しきれないという状況もあり、2020年10月から民間との協働実証事業を行うことになり、つくばで長年不登校支援を行っていたNPOリヴォルヴ学校教育研究所が事業者として選ばれて、不登校児童生徒の学習支援を行う「むすびつくば」がスタートしました。

1年半の協働実証事業が終了するため、2022年度から委託事業に切り替えるとして公募が行われ、新たな事業者が決まりました。しかし、「むすびつくば」に通っていた子ども達や保護者から同NPOによる「むすびつくば」の継続を求める要望が出されました。また、

協働実証事業であったにも関わらず、市としてしっかりと検証が行われていなかったことから、議会でもさまざま追及があり、今年度も同NPOによる「むすびつくば」を継続することになりました。

結果的に不登校支援の委託先は2カ所となり、定員40名×2カ所=80名の多様な学びの場が用意されることになりました。「つくしの広場」の定員ははっきり示されていませんが、毎年15名前後の子ども達の居場所となっています。この3カ所で併せて100名ほどの子ども達の学びの場が用意できたこととなりますが、つくば市の不登校児童生徒数は399名(2020年度)もいます。

まだまだ支援を必要としている子ども達がいいます。今年度から始まる校内フリースクール(学校内に居場所をつくり、教師も配置する)のモデル事業には大きく期待していますが、「つくしの広場」は事業内容の強化が必要ですし、他の民間フリースクールに通う子ども達の支援も含め不登校支援の全体について考える場が必要で、事業者にお任せにせず、教育局が主体的に取り組み、教育委員会でもしっかり熟議をして欲しい、と要望しました。



2022年3月議会議決結果 ●「つくば中央警察署跡地の利活用推進に関する請願書」は全会一致で採択されました。

議決の結果 (○：賛成、×：反対)		会 派 名	つくば・市民ネットワーク	つくば自民党・新しい風	自民党 政清クラブ	公明党 つくば	創生 クラブ	日本共産 党つくば 市議団	つくば チェンジ チャレンジ	清郷会	山中 八策の会	新社会党 つくば
議案第9号 令和4年度つくば市一般会計予算	可決		○ 欠：小森谷	○	× ○：木村修	○	○	×	○	○	○	○
各会派の所属議員(敬称略) *は会派代表(議員数28 議長：小久保)			*小森谷、川村 あさの、皆川	*黒田、長塚、神谷 小久保、五頭 ヘイズ、久保谷	*飯岡、宮本 木村修、塚本 鈴木	*小野 山本 浜中	*高野 小村 中村	*橋本 山中	*川久保	*木村清	*塩田	*金子

議案第9号の令和4年度予算について、つくば・市民ネットワークは「新型コロナウイルス感染症拡大を契機に顕在化した課題への対応や子育てのための環境整備や、学校サポーター配置・スクールソーシャルワーカーの大幅増員など改善へ向けた事業が予算化されている。また、センター地区のまちづくりについても、つくば市の顔であり玄関口である中心市街地の活性化は喫緊の課題であり、着実に進めるために適切な予算」と判断し賛成しました。



つくば市議会議員
総務委員会副委員長
あさの えこ

一般質問項目

- ・放課後子供教室のあり方
- ・プロポーザル方式による事業者選定



「放課後子供教室」を毎日の居場所♪に

つくば市には児童館が隣接している小学校が17校あり、児童が放課後遊びにいきます。保護者の帰りがちょっと遅くなる時でも安心ですし、子どもたち自身も自由に過ごせる居場所の一つとなっています。

しかし、残念ながら児童館が隣接していない小学校等が約半数あります。その学校の子どもたちにも児童館のような居場所が作れないかという視点で、学校施設などを利用した「放課後子供教室」について質問しました。

文部科学省によれば、放課後子供教室とは「放課後や週末等にすべての子どもを対象として、安全・安心な子どもの活動拠点（居場所）を設け、さまざまな体験活動や交流活動等の取り組みを推進する」事業であるとしています。

つくば市では各学校の体育館等で年1回～数回のイベントを実施する『イベント型』放課後子供教室を行ってきました。それに対して市民ネットでは「イベントを毎日企画しなくてよいので、子どもを見守る居場所として開催日数を増やしてほしい」と提案してきました。

現在、秀峰筑波・学園の森・みどりの学園の3つの義務教育

学校では「交流ひろば」の名称で週3～5回放課後子供教室が開催されています。このうち秀峰筑波は毎日開催されており、「児童館」に近い形で運営されています。ここを支えるのは統合前の北条小学校でも活動してきたボランティアチーム。ローテーションを組んで毎日の見守りに取り組まれています。

このような開催が他校でもできないかという質問に、「定期開催のためには人材確保が必要。**市民ボランティアの掘り起こしや人材育成のため地域への呼びかけを積極的に行う**」との前向きな答弁がありました。

また、改めて放課後子供教室の目的について質問したところ、「**すべての児童が気軽に立ち寄ることができ、安心して過ごせる居場所を提供すること**」とこども部長が明言し、「放課後子供教室を居場所にする」という認識を共有できました！

コロナでコミュニケーションが取りづらくなっている、制限の多い学校生活を送っている子どもたちに、ホッとできる、「何もしなくてよい、何をしてもよい」ひとときは本当に大切なもの。放課後の居場所がすべての子どもたちのものになるよう今後も働きかけていきます。

地域のため、子どものため、 どんな給食を実施するのか？

学校給食在り方懇談会 審議中

市民ネットはこれまで、遺伝子組み換えでない食品・農薬や添加物を減らした食材を使用した給食、地産地消や食育の推進、喫食時間の確保を実現するため、自校式給食を求める署名活動や調査に取り組んできました。

つくば市は長い間、小中学校・幼稚園の給食は、センターで調理し各学校に配送しています。近年、人口増加で児童生徒が急増しているため、給食センターはさらに効率化・大規模化の方向に進んでいます。2020年末に示された計画では、老朽化した荃崎給食センターを桜給食センターに統合して6500食の大型給食センターを建設する案が示されました。この計画に対し、パブコメや議会で異論が相次いだために、給食の在り方について検討する「つくば市学校給食在り方懇談会」が2021年度に設置されました。

懇談会では、現役高校生を含む市民公募委員から、地産地消や食育の推進、そのための自校式給食の実現など、活発な意見が出ています。その一方で、執行部から財政負担の問題や自校式給食導入の難しさについて説明されたため、委員から「市長はどのように考えているのか？」という疑問の声が出されました。

そこで、3月議会では懇談会の位置づけと市長としてどのように考えているか質問しました。市長からは「『ここ（在り方懇談会）で荃崎給食センターの議論をしても意味があるんですか』という委員さんの不安の声がありました。私は大いに議論をして頂きたいと思っています。また、自校式給食・地産地消・食育について、積極的に議論を深めて頂き、そういう中で財政的な制約などは教育委員会や議会から意見を頂き、決定をしていく」という答弁がありました。



このように、現状のセンター方式のみにとらわれず、「子どもたちのためにどういう給食を実現したいのか」、「つくばが目指す食を通じた教育とは何か」

について懇談会で議論し、その実現へ向け方向性を示すことが重要です。今後も在り方懇談会の議論に引き続き注目していきます。



つくば市議会副議長
都市建設委員会委員
皆川 ゆきえ

一般質問項目

- ・生活保護制度
- ・学校給食の在り方懇談会
- ・荃崎地区・筑波地区の実証実験バス

このまま進めていいの？！
大胆な規制緩和
官民連携のデータ利用

スーパーシティ構想

2022年3月10日に行われた国家戦略特別区域諮問会議（議長・岸田文雄首相）で、つくば市はスーパーシティ型国家戦略特別区域に認定されました。しかし、特区認定を手放しで喜んではられません。スーパーシティとは、先端技術を駆使し、様々なデータをビッグデータとして官民連携で活用を進めていく未来都市構想で、複数分野の大胆な規制改革を前提としています。

スーパーシティ構想を進めるにあたって、つくば市は“スマートシティ倫理原則”を制定しています。倫理原則には、「透明性が担保され、市民が仕組みを理

解した上で意思決定できること」「市民は身体的、精神的、経済的な危害にさらされないこと」「市民のプライバシーの保護」と書かれています。しかし、その倫理原則が守られているかどうかは事業者各々のセルフチェックのみで、第三者によるチェック体制が整備されていません。このままスーパーシティ構想を進めると、市民生活やプライバシーが守られないと危惧します。

さらに今後、担当大臣・市長・事業者等で『区域会議』が設置され基本構想を策定しますが、そこでの決定に対して議会や市民がどこまでモノが言えるのか、住民の意向はどのように反映されるのか全く見えません。

市民ネットは、このままスーパーシティ構想を進めるのは、大きな問題だと考え、まずは倫理原則の実効性あるチェック体制が必要と求めています。



主な活動報告

- 1/16 学習会「つくば市の2050年脱炭素対策（歌川学さん）」開催
- 1/21、23、24 上映会「屋根の上に吹く風は」開催
- 1/22 議会報告会（市議会主催）
- 1/29 第2回ローカル・パーティの可能性を考えるセミナー～ローカル・パーティと国政を考える～参加
- 2/10 森と自然の育ちと学びフォーラム2022参加
- 2/14～3/23 3月定例市議会
- 2/19、20 第5回ワーカーズ・コレクティブ・ネットワークジャパン全国会議～孤立や分断を協力の力でつなぎ持続可能な地域社会をつくろう～参加
- 2/23 第18回つくば市民ネットワーク総会
- 2/23 子宮頸がん(HPV)ワクチン問題市民シンポジウム参加
- 2/26 つくば市SDGsパートナーズ会員交流会参加
- 2/27 講演会「浸透性農業（ネオニコチノイド）はヒトにとって安全か？」参加
- 3/ 5 共に難病患者と防災を考える会参加
- 3/11 3.11東海第二原発再稼働ストップアクション参加
- 3/13 議員と話そう会開催
- 3/20 まめいち出展（ダンボールコンポスト）
- 3/22 脱炭素かわさき市民会議報告会参加
- 3/29 生活クラブ運動グループ協議会出席

※テーマごとの部会活動の他、市の各種委員会・審議会等も多数傍聴しています。

生ごみを堆肥に！ ～ダンボールコンポスト～

燃やせるごみの約4割弱を占める生ごみ、焼却してしまったら、他のごみといっしょに焼却灰として最終処分場に埋め立てるしかなくなります。手元で堆肥にできれば、遠くまで運ぶこともなく循環させることができ、またCO₂削減にも繋がっています。そんな小さな循環の輪を広げたいと、3/20(日)、つくば市大角豆の「まめいち」にダンボールコンポストを初出展！

市民ネット通信で「ごみの最終処分場がつくば市にはない」ことを知った、まめいち主宰者の方から「ごみ減量の手段としてダンボールコンポストを紹介してほしい」とのうれしいオファーをいただき実現。お彼岸らしい穏やかな晴天の中、たくさんの方とお話することができました。講習会の予約をされる方、またご自分が主宰される居場所での出張講習会を考えてみるとおっしゃる方など、新しいご縁がいくつも生まれました。



「まめいち」にダンボールコンポストを出展（まめいち毎月第3日曜に開催されています）

参加費無料
要申し込み

ダンボールコンポスト講習会



ダンボール箱の中に基材を入れ、それに生ごみを加え、まぜるだけで、生ごみが発酵し堆肥になるという簡易生ごみ処理器です。

2022年5月14日(土)
10:30～12:00

つくば・市民ネットワーク事務所
(つくば市二の宮2-1-3 クラフトビル1F)

左記日程でご都合のつかない方は、別途、講習会を計画できますので、お問い合わせください。
お申し込みは、
TEL:029-859-0264(市民ネット)
またはこちらまで。 ➡



生活保護申請 ためらわずに相談を！

深刻な生活困窮になっても、生活保護につながらないケースがあります。その背景には、親兄弟や子供に扶養可能か確認する「扶養照会」があるので…とか、自家用車や自宅、借金があるとダメなんじゃない？など、様々な誤解があるようです。そのせいで申請に至らず、命の危険や事件事故につながるのは避けなければなりません。

3月議会で、扶養照会は、どうしても無理なら断れる、と厚労省から自治体へ連絡されている旨が確認できました。また、通常、生活保護は申請から保護費支給まで約3週間を要しますが、ライフラインが止まるなど窮迫している場合は、申請と同時に保護を決定し、最速で5日後には支給されていると分かりました。また、これまでも住宅の公的支援として市営住宅の提供等が行われてきましたが、新年度から、住居を失った方に3か月間宿泊場所・食事・衣類等を提供し生活再建のサポートをする一時生活支援事業も始まるとのこと。

ちなみに、自家用車・自宅・借金などがあっても生活保護が受けられるケースもあります。市民ネットでは生活相談を行っています。まずはご相談ください。

傍聴記

僕は昨年秋の衆議院議員選挙の街頭演説を聞いて、つくば市の政治はどの様になっているのか気になったので、市議会の傍聴に初めて行きました。学校に関する質問もあり、小学生の自分たちも政治に関係があるとわかり、とてもうれしかったです。また色々な質問がありましたが、コロナウイルス関連の質問が多いなと感じました。ほかにもドッグランや相談センターについてなど多種多様な質問がありましたが、議員さん達が市民のことを第一に考えた質問をしていて安心しました。また市議会の傍聴をしに行きたいと思います。(小学生)

インターン体験記

若年投票率の向上を目標に活動するNPO法人ドットジェイピーの、学生を対象とした議員インターンシッププログラムに協力しています。今回参加した大学生に、感想を聞きました。

私が市民ネットにインターンをしようと思ったきっかけは、自分達の生活の仕組みを形作る機関の実態を知りたいと思ったからでした。市民ネットにて、議会傍聴や市民活動、事務所打ち合わせ等の活動を経て、どこか遠い存在だと思っていた政治の世界をとても身近なものに感じるようになりました。市民ネットの事務所に掲示してある「生活は政治だ！」という文言の通り、普段過ごす中で自分にできることが何かと考えられれば、少しずつでも社会は良くなるのではないのでしょうか。政治はお堅いものではないと、そう認識が変わった2ヶ月でした。(大学生)

議員と話そう！会

定例市議会の報告を兼ね、代理人(市議)の皆川、小森谷、浅野、川村を交え、様々な情報と意見交換を行います。お気軽にご参加ください。

5月22日(日) つくば・市民ネットワーク事務所
14:00～16:00 (つくば市二の宮2-1-3 クラフトビル1F)